

第5回 足立区パラスポーツ推進協議会 会議録

会 議 名	第5回足立区パラスポーツ推進協議会		
事 務 局	生涯学習支援室 スポーツ振興課		
開 催 年 月 日	令和7年3月28日（金）		
開 催 時 間	午前10時00分 ～ 午前11時21分		
開 催 場 所	足立区役所 8階 特別会議室		
区長の出席	有・ ☒ 無		
出 席 者	会長 盆子原 秀三 委員	副会長 藤後 悦子 委員	副会長 植松 隼人 委員
	副会長 安岡 由恵 委員	飯ヶ谷 美恵委員	鵜沢 勝 委員
	加藤 仁志 委員	蔵津 あけみ 委員	小金井 寛 委員
	齋藤 安江 委員	佐藤 奈緒 委員	鈴木 常義 委員
	戸部 明男 委員	中島 進 委員	羽住 敏久 委員
	原 則子 委員	森澤 美穂 委員	
	依田 保 委員	千ヶ崎 嘉彦 委員	馬場 優子 委員
欠 席 者	桑原 芳枝 委員	照井 智幸 委員	中村 一昭 委員
	中山 小夜子 委員	西方 雅良 委員	
会議次第	1 スポーツ施設についてのご意見の報告 2 令和6年度パラスポーツミーティングの実施結果の報告と意見交換 3 前回協議事項の確認 4 アクションプランの「各事業詳細の新規事業」の設定 5 その他 6 次回日程について		
配付資料	・資料1 足立区パラスポーツ推進協議会委員名簿 ・資料2 スポーツ施設についてのご意見と報告 ・資料3 第4回パラスポーツ推進協議会 発言の要旨 ・資料4 足立区パラスポーツアクションプラン（案） ・資料5 令和6年度パラスポーツミーティング実施結果の報告 ・チラシ（令和7年度障がい者スポーツ活動助成金・障がい者運動教室）		
そ の 他	傍聴人： ☒ 有・ ☐ 無 その他の参加者：有・ ☒ 無		

(審議経過)

＜村本スポーツ振興課長＞定刻でございますので、ただいまから第5回足立区パラスポーツ推進協議会を開催させていただきます。

本日は、お忙しいところご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

私は、スポーツ振興課長の村本と申します。審議が始まるまでは私のほうで司会進行を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

本日は、委員26名のうち20名の委員にご出席いただいておりますので、定足数である過半数を満たしており、本協議会は成立しております。

本協議会は条例で公開を原則としており、会議記録はホームページ等で公開させていただきます。会議記録を正確に作成するため、皆様のご発言を録音させていただいております。

前回の第4回パラスポーツ推進協議会の議事録案について事前に郵送させていただいておりますが、内容の修正がございましたら、お手数ですが4月11日までに事務局までお申し出ください。

ご発言の際は、恐れ入りますが、挙手をお願いいたします。お名前をお呼びいたしますので、お手元のマイクのスイッチを押して発言をお願いいたします。ご発言が終了しましたらスイッチをお切りください。マイクのスイッチ操作については、近くの係員がサポートさせていただきますので、お声がけいただければと思います。

なお、本日は傍聴の方が1名いらっしゃっております。

公開はいたしません、記録のため写真撮影をさせていただきますので、ご了承ください。

審議に入る前に、おわびと訂正がございます。

1点目ですけれども、令和6年9月30日に開催いたしました第3回協議会の冒頭に、当日ご欠席の都立足立特別支援学校校長の鈴木委員を、4月より人事異動により新たに委員となった旨、ご案内をいたしました。しかし、この内容は誤りでございまして、鈴木校長先生は昨年度以前より足立特別支援学校の校長を務められており、第1回から委員でいらっしゃいました。誤ったご案内を行い、大変申し訳ございませんでした。訂正をさせていただければと思います。

2点目ですけれども、事前にお送りいたしました次第では、先日、3月18日に行いましたパラスポーツミーティングの内容報告と意見交換について、最後の「その他」のところでご議論いただく予定でしたが、盆子原会長とも事前に相談させていただきました。次第2に変更させていただきたいと思っております。パラスポーツミーティングの内容について皆様でご議論いただき、アクション

プランにも反映していきたいと考えております。訂正した次第とパラスポーツミーティングの実施結果の報告を資料5として机上配付させていただきました。

3点目です。事前にお送りしております資料2の内容に誤りがございました。誤りの箇所は、2ページ目のトイレの照明に関する内容です。訂正した資料を、本日、机上に配付させていただきました。内容は後ほどご説明いたします。

そのほか、新年度の助成金のチラシと障がい者運動教室のチラシを机上に配付させていただきました。

それでは、ここからは具体的な審議に移ります。

盆子原会長、進行をよろしくお願いいたします。＜盆子原会長＞盆子原でございます。よろしくお願いいたします。

年度末の本当にお忙しい中、また、本日は足元が悪くお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

今回が第5回目の会議となります。会が発足いたしました1年となります。第1回目のリタさんからの言葉ではありますが、委員の皆様方が同じ船に乗っているという共通の認識の下、障がい者のスポーツの実施率向上のために、アクションプランのイメージづくりから始まった次第であります。前回の会議では、それを実行するための4つの施策の柱が出来上がりました。そして今、より具体的な策を構築している段階でございます。

先日、実施されましたパラスポーツミーティングにおいて、多くの方がお集まりいただきました。一人一人が積極的に話し合いに参加していただきました。もっとよくしたいという気持ちが皆さんで共有できたと改めて感じました。もっとやるべきことがあり、チャレンジすることがあります。今まで以上に皆様方の経験やアイデア等、より一層のご意見を賜いますように、よろしくお願いいたします。

1 スポーツ施設についてのご意見の報告

＜盆子原会長＞それでは、本日の審議に入ります。次第の1番「スポーツ施設についてのご意見の報告」について、事務局より説明をお願いいたします。

＜村本スポーツ振興課長＞それでは、私からご説明させていただきます。

事前にお送りしました資料2の「スポーツ施設についてのご意見と報告」をご覧ください。本日は差し替えさせていただいた資料ですが、大丈夫でしょうか。

前回の協議会で委員の皆様から頂戴しましたご意見を区で検討いたしました内容について、ご

報告いたします。

1 つ目についてですが、「プールにおむつが取れない子が全く入れなくて、多少おむつが取れていない人も入れるようなプールがあるといい」とのご意見を頂戴いたしました。

ご意見を頂きましてスイムスポーツセンターで実施しております年 2 回のプールの水の入替え作業の前のプール休業日に、おむつが取れていない方の限定利用が可能であるかどうか検討いたしました。

プールの水抜き作業は、プールの休業日を短くするために、営業再開の日から逆算して工程を組んでおり、休業日前日の営業終了後からプールの水を抜き始めております。そのため、プール休業日初日の午前中に、おむつが取れていない方の限定利用は時間的に難しいとの結論に至りました。誠に申し訳ございません。東京都障害者総合スポーツセンターの利用条件をご確認いただきまして、同センターを利用していただきたく存じます。

続きまして、裏面になりますけれども、「総合スポーツセンター 2 階のトイレが節電で、照明がいつも消されている。ロービジョンの人は明るいと見えるが、暗いと見えなくなってしまう」とのご意見を頂戴いたしました。

総合スポーツセンターに状況を確認しましたところ、1 階フロアと 3 階フロアは利用者が多いため、1 階と 3 階のトイレは開館から閉館まで常時点灯しておりましたが、2 階フロアは 1 階と 3 階に比べて利用者がやや少ないため、開館後に照明の点灯はせず、利用者の方に点灯のスイッチを入り切りしていただいております。今後は、視覚障がい者の方が 2 階フロアを利用する際には、2 階のトイレと付近の廊下の照明を施設職員が点灯するようにいたします。

報告は以上でございます。

○盆子原会長 ご説明ありがとうございます。

前回の会議で幾つかの問いかけがありましたが、まず、この 2 つの点についての回答でございます。

何かご意見やご質問がございましたら挙手をお願いいたします。

<佐藤委員> 親の会の佐藤です。

前回、プールのことを発言させていただきまして、それに対していろいろと区のほうでもあちこちに聞いていただいて調べていただきまして、ありがとうございます。

結果的に区内では入れないということなのですけれども、特別支援学校ではプールの授業はやっていただいていたし、福祉施設でも、他区で施設内に——屋外のプールですけれども——プールがあるところは、もちろん利用者さん皆さんが入られていて、うちの福祉園でも他区のほうに借りに行って入らせてもらうということを最

近やっているということでしたので、もちろん東京都のほうにしっかりした施設はあるのですけれども、やはり区内に誰でも使えるようなプールがあるといいなということは改めて感じました。この問題も共有していただいて、いろいろと調べていただいてありがとうございました。

<村本スポーツ振興課長> 区内のスイムスポーツセンターさんのほうにも検討させていただいたのですけれども、なかなか現状難しいということになってしまいまして、誠に申し訳ございません。東京都の施設をご利用いただくところで、現状はご理解いただければと思います。申し訳ございません。

<鈴木委員> 今、親の会の会長さんからお話があったのですけれども、知的の高等部の学校なんかでは、地域の作業所の方々にプールを開放したりはしているので、学校の施設、プールなんかを利用していただけるといいのかなと思ったのが 1 つと、おむつが取れていない方々というのは水深が深いとかなり危険なので、水深の浅いプールというのは、高等部があるような知的の特別支援学校では持っていませんので、そこら辺を少し考えていけば、都立の学校の施設を活用していただければいいかなというふうには思いました。以上です。

<盆子原会長> ありがとうございます。

<安岡副会長> 安岡です。

私、特別支援学校のプールで使用しているおむつの状況が分からなかったのも、今ちょっとググって見たのですけれども、プール用のおむつというのは水遊び用のおむつとは別に設定されているようですね。ラテックス製で、便が万一漏れても、それが水の中に漏れないようなプール用のおむつというのがあって、そこそこ大きい、中学生以上のお子さんとかでも使ってもらえるぐらいのサイズまでは——ちょっと高額ですけれども——あるようです。

今回の議論が、もし水遊び用のおむつを前提にしたものであれば、前提が異なりますので、こういった便が漏れないタイプのおむつを着用して使用することができるのかどうかという視点でもう一回調査していただけると、二度手間になって申し訳ないですけれども、おむつが取れていないお子さんの活動の機会が広がるのかなと思いました。

<村本スポーツ振興課長> そこは持ち帰りという形にはなってしまうのですけれども、便が漏れないおむつのやり方というところですかね。持ち帰りで検討させていただく形にはなりますけれども。すみません。

<盆子原会長> ありがとうございます。

では、原委員。

<原委員> 視覚障がい者のサウンドテーブルテ

ニスというクラブをやっています原と申します。

今、足立区の方からご報告がありましたように、私どものほうで、暗いのでスイッチが分からなくて困っている方がいるのでお願いしましたら、とても早く今回は、私が要望を出して1週間ぐらいで、私のところまで直接お見えになって、ちゃんとプレートも貼って、「ここは消さないでください」としっかり、知らない人が癖で消してしまう人もいらっしやるので、それを消さないように、ボタンを押さないように、ちゃんとコメントを書いたものをしっかりプレートを貼っていただいて、今は毎週水曜日に快適に、行くと必ずついていきますので助かっています。ありがとうございます。お礼です。

<盆子原会長>そのほか、ご意見がございませんでしょうか。

2 令和6年度パラスポーツミーティングの実施結果の報告と意見交換

<盆子原会長>では、なければ続いて、次第2の令和6年度パラスポーツミーティングの内容報告と意見交換について、事務局から説明をお願いいたします。

<村本スポーツ振興課長>それでは、資料5の「令和6年度パラスポーツミーティング実施結果の報告」をご覧ください。

1の実施日時・場所、2の開催目的、3のミーティングのテーマ、4のプログラムについては記載のとおりでございます。

6、グループワークで出た意見ですけれども、(1)必要な情報が関係者に届いていない。(2)一緒に活動できる仲間や信頼できる仲間をもっと増やしたい。(3)今回のように様々な関係者・支援者が集まってコミュニケーションを取れる機会をもっと増やしたいとの意見が出ました。

パラスポーツ専門家、リタ・ファン・ドリエルさんからのアドバイスとしましては、(1)インクルーシブなスポーツ活動に多くの人を巻き込むのがよい。(2)多くの人が集まれば、コミュニケーションが生まれる。そうすると、各々がもっといろいろな活動をしたいと思うはずである。

(3)パラスポーツの推進には、課題も多いが、解決策も多いはずである。多くの人が集まり互いに関係性を作ることが大切であるとのアドバイスがありました。

また、参加者の皆様にご協力いただきましたアンケートの結果ですけれども、設問1としましては、「グループディスカッションの内容は、ご自身や所属団体の活動に活かせる内容でしたか」という質問につきまして、「活かせる」とお答えいただいた割合が86%、設問2の「他の関係者との意見交換や顔の見える関係作りに役立つ内容で

したか」という質問に対しては、「活かせる」とお答えいただいた割合が85%、設問3「次回、同様の企画があった場合にご参加を希望しますか」という質問に対して、「ぜひ参加したい」「参加を検討したい」の割合が88%となっております。設問4「自由意見」としてお伺いいたしましたけれども、「とてもいい内容であった」というご意見を多数頂いた一方、「グループディスカッションのグループの人数が多い」「時間が短い」などのグループディスカッションのやり方について、ご意見を多数頂戴いたしました。

私からの説明は以上でございます。

<盆子原会長>ご説明ありがとうございます。

それでは、今の説明についてご意見やご質問などございますでしょうか。挙手をお願いいたします。

それでは、ないようですので、参加された方のご感想などお伺いしたいと思っております。

もしよろしければ、鶴沢委員、お願いいたします。

<鶴沢委員>ありがとうございます。私、当日参加させていただきました知的障がい者サッカークラブ、スポーツクラブを運営しています鶴沢と申します。よろしくお願いします。

当日参加者等はこの資料にあるとおりでした。3グループに分かれてディスカッションをさせていただきました。当日はリタ・ファン・ドリエルさんを迎えての会でした。参加者は、障がい者福祉に関わる人やパラスポーツに関わる人、パラスポーツ指導者、パラアスリート当事者の方、様々なジャンルで活躍している方が参加していました。

副区長の挨拶から始まりまして、東京オリ・パラ後、日本でのパラスポーツの普及や認知度は大きく変化したとの報告がありました。ですが、まだまだ道半ば。今後も日本・東京・足立区のレガシー事業として確立し、今後いかにして一過性のもので終わらせずに、今年の東京デフリンピックにつなげ、その後もスポーツを通して共生社会の確立をしていくのか、ということに参加者がそれぞれグループに分かれてディスカッションしました。各地域の課題や問題点を挙げ、その課題を解決していくためには何が必要なのかを話し合い、グループごとに発表を行いました。その結果がお手元の資料のとおりです。

やはり同じような課題が浮き彫りになりました。それは皆さんが既にご承知のとおり、指導者の問題、資金の問題、ボランティアや関わる人の不足の問題でした。

結論は私のグループも曖昧だったのですが、リタさんが常々おっしゃっているとおり、取りあえず私たち一人一人が思ったこと、感じたことを行動し、声を上げ、一人一人がゲームチェ

ンジャーであることが何よりも大事。リタさんが常々口に入っている「失敗を恐れずにやってみる。「Do it」の精神が不可欠である」ということでした。そして、もっともっとスポーツコンシェルジュの利用者が増えるように、私たちがその存在を発信していくことが大事なのだと意識しました。

リタさんが「また来日した際に、足立区のスポーツを通して共生社会の実現が今よりも前進しているということを楽しみにしています」ということでした。以上です。

<盆子原会長>ありがとうございます。

以前から鶴沢委員は、いわゆるスポーツコンシェルジュとの協力体制というのは非常に重要だという話をなさっておられました。本当にそうだと思います。ありがとうございます。

次でございすけれども、小金井委員からお願いいたします。

<小金井委員>KIT クラブの小金井と申します。

先日のパラスポーツミーティングですが、私は後半のワークショップ、付箋をホワイトボードに貼って、大勢の皆さんの思いのままのご意見が出て、集約するといろいろと、その筋のものとして共通するものがこうなのだなと実感できたのですけれども、非常にその点が参考になったと感じております。以上です。

<盆子原会長>ありがとうございます。

それでは次に、原委員、よろしいでしょうか。<原委員>サウンドテーブルテニス、視覚障がい者の卓球をやっています当事者です。

当日、3グループに分かれてミーティングはとてもよかったのですが、ちょっと人数が多かったのと、隣のグループの声が聞こえたり、自分のグループの司会の方が一生懸命まとめているのがちょっと聞き取りにくかったりしたことは感じましたけれども、流れとしては、みんな参加型で、「メモに書いてください」ということで、「こういう問題があるんです」ということを書いたり、こういうふうにしたらいんじゃないかというメモを書き出してグループごとのミーティングができて、この会議と違う参加者の方の自己紹介を伺いますと、スポーツ指導員の方がいっぱいいらっちゃって、私たち、僕たちは、いろいろなボランティアをしたいと思っているんですけど、どこで何をやっているか分からないので、情報公開かな、そういうのがとても欲しいという発言は3グループとも出ていました。

当事者の私たちもやっているのですが、私たちのやっているスポーツが足立区内にどれだけ認知されているかなということと、普及するにはどうしたらいいのかなということは、いつも悩んでいるところなのですが、いろいろな意見が出ていました。ホームページに活動日とか、

そういうのを掲載したらどうかとか、いろいろ前向きなことが出ましたけれども、詰めまでいかなかったように感じますので、ああいう会議はとてもすばらしいと思いましたので、今後も引き続きああいうふうに、会議じゃなくて、本当にミーティングという感じで道が開けるかなということを感じたので、ぜひ継続してできたらと思いました。

簡単ですけれども、感想でございます。

<盆子原会長>ありがとうございます。

共通の認識をみんなでしっかりと、その上での解決策に至れば非常にいい会議になるのかなと思っております。ありがとうございます。

次に、羽住委員からお願いいたします。

<羽住委員>スポーツ推進委員会の羽住です。

今回のパラスポーツミーティング、以前から何回かやって、今回パラスポーツミーティングという名称で初めて行われたわけですが、以前は6つの地域に分かれてやっていたのを、今回は2つのブロックが一緒になって行ったということで、ちょっと人数が多かったのかなという気はしております。

私は、藤後さん、鶴沢さんがコーディネーターでお二人いたところのグループにスポーツ推進委員として入ったわけですが、今回、参加者はいろいろな方がいました。こういった団体もあるのかということで、改めて福祉というか、障がい者の団体とか、そういうものはいろいろなものがあるのだなというのが発見できたということ。それから、それぞれにいろいろな要望があるんだなというところも分かりました。

また、障がい者の方々からは、区でやっているイベントだとか、そういうのが伝わり切れていない。それから、施設とかもどうやって利用したらいいのとか、そういった不安な要素がいっぱいあるということがよく分かりました。

先ほど鶴沢委員もおっしゃったとおり、オリ・パラレガシーでつくられたスポーツコンシェルジュ、これの活用が一番いいのかなということで、グループの中で意見が出たのかなと思っております。スポーツコンシェルジュの存在すら知らないという方もいらっしゃいました。今、お一人でやられているということですが、オランダでは1年ごとに1名ずつ増えていったということで、6年目には6名という話もありましたけれども、ぜひ足立区でもどんどん増強していただいて、今は受け身の態勢みたいな感じなのですが、今後は情報発信の機能も持っていていただけたらいいかなということが、今回のミーティングで分かったなというところで、参加させていただいてありがとうございました。以上です。

<盆子原会長>貴重なご感想を頂きましてありがとうございます。

それでは、安岡委員からお願いいたします。
＜安岡副会長＞当日ご参加くださった皆さん、ありがとうございました。

3つの班に分かれて行いましたグループディスカッションですが、私、そのうち1つのコーディネーターを務めさせていただきました。グループワークというには、人も多し、時間も少なかったのも、その場で結論を出すというか、具体的な解決策を考えるということ、私のグループではやりませんでした。

代わりに何をしたかという、いろいろな人が、いろいろな立場で、いろいろな課題に向き合っている一方で、いろいろな形でそれを解決する方法を持っている可能性があるということ、お互いに知り合うということを目指して議論を進めました。

その結果、課題として大きく4つ挙げられまして、共通してこのテーマというのが、要は、誰にでも、いつでも気軽にスポーツを楽しむ環境をつくりたいということに對しまして、場所がまずないですね。そして場所が仮にあったとしても、そこまでの輸送の方法がないというのが、まず1つ目の大きな問題。その中には、危ないといって使用を断られるような施設があったりとか、どんなスポーツがそもそも該当している方——障がいのある方にできるかという、どういうバリエーションがあるのかという選択肢を把握できないというようなことも含まれていました。

それから、指導者に関する問題で、「指導員がいらっしゃる一方で、指導してくれる人がいないんです」という問題。マッチングの問題があるなということ。

それから、「場所も指導者もあるんです。ただ利用して下さる方にアプローチできないんです」という問題を抱えていらっしゃる方たちもいらっしゃいました。

あとは、「場所はあります。どう活用していいかが分からないんです」というご意見をくださった方もいらっしゃいました。大きく分けて、この4つが課題として挙げられました。

そして結局、私どものグループの中では、たまたまですが、東京ヴェルディで障がいのある方たちの指導をされているコーチがいらっしゃいまして、「場所もあります。私たちのようなコーチもいます。だからぜひ選択肢の一つとして活用してください」、これは一つの具体的な解決策でした。

こういった形のワークショップ、それからいろいろな人々と意見を交換する場というのは非常に重要だということ認識された方が多かったです。地域内でこういう機会をたくさん持つことができれば、自分たちの中で解決策を探していくことができる。そのためには、こういう機会は

1回だけじゃなくて、もっとたくさん開いてほしい。そうすればネットワークを構築することで解決できることが増えていくんじゃないかというご意見を頂きました。

そして行政に対しても、今までは漠然と「こういう困り事があるので何とかしてください」というお願いの仕方しかできなかったのが、ネットワークを通じて問題が具体化することで、もっと具体的な要望として行政に要望を伝えられるようになってくるんじゃないかというようなことをおっしゃっていた方もいらっしゃいました。

ですので、今回の経験というか機会が、もっと具体的な解決方法を探していけるような形で発展していけると、非常に有効な解決方法になっていくのではないかなと感じました。

私から以上です。ありがとうございました。
＜盆子原会長＞ありがとうございます。

本当に立場が違えば、いろいろな方の思いがある。その中でどうやって解決をしていくか、みんなでチャレンジしていくかということ、そういったところは非常に重要だなと感じました。ありがとうございます。

次に、藤後委員からよろしくお願いいたします。
＜藤後副会長＞東京未来大学の藤後です。

簡単にご報告させていただきます。ですが、もう既に概要も含めてご説明いただいていますので、ちょっと違う視点からお話しできればと思います。

まずはグループワーク等の進め方ですけれども、私としては、内容というか、手続としてはすごくよかったと思います。すなわち最初に個人個人の作業として、問題点であったり、工夫したい点というものをシートに書き出して、その後小集団——小集団というか大集団になっちゃいましたけれども——に移っていくというプロセスは、大変よかったと思っています。

ただ一方で、先ほどからご指摘がありましたけれども、少し人数が多かったですので、貼っていただいたものをまずグルーピングするのが大変でした。私のグループは鶴沢委員にすごく助けられた次第です。ですので、繰り返しになりますけれども、やはりグループのサイジングということは今後の検討事項であると思います。

グループディスカッションが始まるとすぐに、困り事に対して皆さん方、参加者の方々からいろいろな解決方法をご提案いただきました。羽住委員もその場で「個々に伝えたらいいよ」であったり、「こういう方法があるよ」ということをお話しいただきました。あのアドバイスはすごく貴重だったと思うのです。ですので、まさに皆様方自身が解決策を持っている。先ほどネットワークの話もありましたけれども、対面で話し合う機会をいかに保障できるかということは、一つ重要

なことだと思います。

もう一つ印象に残ったのが、広報の仕方です。もちろんインスタを使いながらであったり、「あだち広報」の中でもパラスポーツのセクションなどをつくるというご提案も頂きました。いろいろ新しいアイデアとともに、鶴沢委員からお話があったのですが、「ともかく身近な人に3人目指して声をかけていこう」という具体案がありました。実はこの口コミというのが、すごく重要だと思っています。いかによいイベントがあったとしても、それがどれくらい楽しいか、どれくらい意義があるかということを信頼している人から伝えてもらうことが、その後の汎用性につながっていくかなと思っています。

最後に、今後課題というか、発展して考えられるかなと思うことを3つお話しいたします。

まず1つ目は、いろいろな方がお集まりいただいていたので、そもそもその方々がどんな活動をしているのか、活動紹介みたいなものがあってもいいのかなと思いました。5分程度で構わないと思うのです。どのような活動をしているかということが分かれば、お互い紹介もしやすいのかなと思うのが1点目。

2点目は、今後グループディスカッションをする際に、今回はパラスポーツミーティングということで、第1回目であれば問題ないと思うのですが、次は例えばテーマごとに分けて小グループをつくっていただくというのも1つの方法だと思います。

そして3つ目は、今後継続的に開催していくに当たり、対面での開催が難しい場合、例えばチャットのグループなどがあったりすると、「こういうことを困っているんだけど、どんな方法があるかな」というような簡易的にお互い相談し合えるようなツールもあるといいのではないかと思います。以上でございます。

<盆子原会長>ありがとうございます。

今後に向けての幾つかの課題を提示いただきましてありがとうございます。

私も今回初めて出席をさせていただきまして、総勢54名でしたか、夜遅くまで非常に活発に討論なさっていたのですごいなという感じがしました。交流の場としては、頻繁に行うことは非常によいことだと感じます。

ただ、ちょっと惜しかったなと思ったのは、その場のグループの中でLINE交換とか情報網ができていたら、またフィードバックできたかなという感じはいたします。専用のといいますか、そういう情報を得るところで、みんながそこに集中できるといいですか、集うようなメディアがあればなと感じました。

もう一つは、前回のテーマでどんなことが話し合われたのだろうかというところ、それによっ

て次のテーマを投げかけるというか、そのためには今回皆様が付箋で一つ一つ書いておられたものをもう一回見直していったら、それについてどういうふうな傾向があるのかという一つ一つをもう一回まとめて、またそれを発信していくようにできたら、いわゆるステップアップできるような会になるんじゃないかなという感想です。本当にありがとうございました。

以上で、なければ次に行かせていただきますが、<加藤委員>足立区ろう者協会の加藤です。

パラスポーツミーティングについて、私は何も情報がなくて、実は2月9日、全日本ろう者空手大会の試合がありました。聞こえる人も聞こえない人も混じっています。ろう者だから危ないということではなくて、きちんと正しく空手をやりました。それはとてもいいことだと思います。

課題もいっぱいあります。今お話を聞いたパラミーティングについて、私も参加できればよかったな、残念だなと思いました。個人の申込みで連絡を待つという方法なのでしょうか。もし早めに連絡いただければ、ぜひ出席したいと思います。これは申込み方法だったのですか。それとも、そちらからの要請ですか。

<村本スポーツ振興課長>区のほうから、メールで依頼文を出させていただいたところでございます。

<加藤委員>私のほうには来ないということですよ。

<村本スポーツ振興課長>加藤会長にもお送りしたのですが、当日、ほかの用事があるということでお聞きしているところでございます。

<加藤委員>後で、事務所で確認します。よろしくをお願いします。

<盆子原会長>それでは、確認をお願いします。

3 前回協議事項の確認

<盆子原会長>続いて、次第3の「前回協議事項の確認」について、事務局から説明をお願いいたします。

<村本スポーツ振興課長>それでは、資料3の「第4回パラスポーツ推進協議会発言の要旨」をご覧くださいと思います。お手元にございますでしょうか。大丈夫でしょうか。

<盆子原会長>資料のない方、挙手をお願いいたします。

<村本スポーツ振興課長>ほかの皆様、いかがでしょうか。

それでは、よろしいでしょうか。

前回の審議では、アクションプランの各事業詳細の新規事業につきまして事務局からご説明して、委員の皆様からご意見を頂戴いたしました。

1の「各活動主体別の情報連絡体制の構築（新

規)」では、情報発信したいが、なかなかできない旨のご発言がありました。

2の「既存施設へのユニバーサルデザイン導入（改修時もしくは随時）（新規）」については、先ほどご説明いたしました、おむつが取れない方のプール利用ですとか、弱視の方のトイレ利用についてご意見がありました。

3の「障がい理解のあるサークル等の区ホームページでの紹介（新規）」では、情報を受け取る方を意識して、ホームページを作成するのがよいとのご意見がありました。

4の「障がいのある方への移動サポート制度（協議会で検討）」では、大学生のボランティアの話が出ましたが、学識委員から簡単ではないとのご意見がありました。また、ガイドヘルパーなどの支援者が足りていないとの話も頂きました。

そのほか、委員の皆様から多くのご意見を頂戴いたしました。

私からは以上でございます。
＜盆子原会長＞ご説明いただきましてありがとうございます。

前回の皆様方の発言においてまとめたものでございます。

まず1つ目の「各活動主体別の情報連絡体制の構築」というところで、委員の方々から、ここに書いてある家族のグループ、特に母親のグループというのが非常に継続には必要だという意見を頂きました。その母親というところにおきましては、学校主体というところで、いわゆる学校から各お子様方にメールを中心とした連絡網があるということをお聞きいたしました。

そういった意味で、受け身というだけではなくて発信という、誰が、どの段階で発信して、それを流していくかというところ、こういったところがこれから具体的に決めていかなければいけないのかなと思います。

2番目の「ユニバーサルデザイン導入」については、先ほどのプールの問題、またトイレの問題等がございました。

それから、3番目の「障がい理解のあるサークル等の区ホームページでの紹介」というところで、区のほうで団体のホームページを作成するわけではないという前提の下で、いわゆるホームページというのは、自分から拾いにいかななくてはいけないところのいう問題を植松委員から頂きました。そういった中で、いわゆる障がい者がどのように情報収集していくかを意識してホームページを作るほうがいい。いわゆるホームページの見せ方といいますか、そういった中で、文字だけではなくて動画で、または手話でということの意見を頂きました。

4つ目の障がいのある方への移動サポートというところです。ガイドヘルパーの方の問題とか

支援体制についての問題が、ここで挙げられたということです。

皆様方の中でご意見がありましたら頂きたいと思います。ご質問等がある方。

＜千ヶ崎委員＞福祉部長の千ヶ崎です。いつもお世話になっております。

今の第4回のときの4番です。資料3の4番の移動サポート制度を含めて様々ご要望があり、私のほうで持ち帰らせていただくというご説明をさしあげたかと思います。職場で、皆でその辺は議論させていただきました。

ここで課題となっていたのが大きく3つあったかと思っていて、まずガイドヘルパーとか手話通訳の人材が足りていないよねという話がありました。ここについては本当に申し訳ない、我々がちゃんとそこを計画的に育成ができていない、数が増えていないというところは確かにあると思います。策を講じていないわけではないのですが、いま一つ決定打というか、劇的に増えるような決定打がないというのが現状でございます。

ただ、この4月から江北のほうに、すこやかプラザあだちというのができまして、そこで医療と介護の連携の中で人材育成というセクションを置こうと思っています。これは福祉に関わる人材を育成していくという場にしていこうと思っておりますので、その中でもガイドヘルパー、手話通訳の方を増やしていく取組というのもそこで取り上げて、情報発信していくこと。資格は持っているのだけれども、持ったままになっている人がいたりするので、具体的にこういうことをやってほしいとか、そういったことを具体的に話をしていくとか、そういった取組を少し進めていきたいなと思っております。

それから2つ目、利用の範囲の拡大、時間だとか内容について、もっと拡大してほしいというご意見がありました。これもさきの課題の人材が不足していることにちょっとつながってしまうのですが、限られた人材の中で優先的に使っていくというところで、手話通訳については、実際には趣味の範囲には派遣ができないような仕組みになっていたりということが現状としてあります。ですので、そのところはセットで考えていかなければならないかなと思っております。

なお、ガイドヘルパーについては、移動に関しては、趣味の分野においてもオーケーになっています。ただ、プレーをするときのサポートというのですか、そのところに関しては、あくまでもガイドヘルパーなので、そこまでのスキルがなかったり、安全性を担保できないという観点からも、そこについては支援できていないという現状があるので、そのところの職員の説明がちょっと誤っていたのかもしれないので、そのところは

周知徹底していきたいと思います。

ここで議論になったのが、先ほど安岡委員が4点ほど言われていたかと思うのですが、一つ一つ個別に、どこが課題なんだろうねというのを具体化していかないと進まないよねという意見に達しているのです、実は。例えばプレーをする間にどういうサポートが必要なのかということが我々はまだ分かっていないところもあります。だから危険か危険じゃないかという判断ができていない。施設を貸すほうも、やはりそこところがよく分かっていない。課題が何なのかというのが、よく分かっていないから、そうなってしまっているのかなというところがある。

つまり、何が言いたいかというと、様々なスポーツがあって、様々な障がいの方がいて、その中で困っていることは何ですかということをちゃんと吸い上げていく機能というのがないと、この話は具体的に話していかないと進まないなというのを、私も安岡委員と同感で、そのところを強く感じたところです。

ですので、今後はそういう具体の話をもう少しこの場でもできたらいいのかなと思いました。「プレー中のことは支援できません」で終わるのではなく、例えば卓球だったら、ちょっとごめんなさい、私はそこも分かっていないのですけれども、卓球台を組み立てるのができないから、そこを何とかしてくれなのか、それはこういう機械があればできるのか、そういった具体なところが私どもには分かっていない部分があるので、そういったところをもう少し踏み込んでいかないといけないという結論にはなりました。

すみません、長くなって。以上です。
＜盆子原会長＞ありがとうございます。

ガイドヘルパーというところでの前回具体的に困っていることにおいては話されたと思ってはいるのですけれども、原委員、いかがでしょうか。
＜原委員＞私のやっておりますスポーツで恐縮なのですが、今、福祉部長さんがおっしゃるように、卓球台は組み立てなきゃいけないのですね。一枚板の卓球台なので結構重いのですね。ですから私たちがやるとちょっと危険なので、今はガイドヘルパーさんに無理を言ってお願いしてやってもらっているのですけれども、ガイドヘルパーさんも私たちのおうちのお迎えから会場まで安全にお連れするというお仕事がありますので、またさらに会場に着いて、台を組み立て、ネットを張る。それから打ったボールが落ちたのを私たちは拾えないので、それを網でガイドさんが拾ってくださいっているのですね。それも長い間だと、ガイドさんも立ってお疲れになっちゃうかなと思っているのと、最後にまた片づけ。ネットを外したり、台を全部解除して、きちんと倉庫にしまわなきゃいけない。それも労働なのですね。そ

ういうところのお手伝いをしてくれるサポートさんがいて、毎回同じ人だったら、少しプレーのことも覚えてもらって、アドバイスしてもらえぐらいの人がいらっしゃったらうれしいなと思ってチラシなども作っているのですけれども、なかなか見つかりません。そういう同行以外で、スポーツの現場でサポートをお願いしたいというところでは。

＜千ヶ崎委員＞福祉部長の千ヶ崎です。ありがとうございます。

自分が現場で見てちゃんと確認しなきゃいけないのですけれども、ごめんなさい。今、話を伺いまして、なるほどという思いです。それを聞いたときに、さっき話したとおり、人材が増えていないというのは、こちらのほうでなかなか進んでいないというのは申し訳ないのですけれども、だとすると、そこはガイドヘルパーさんじゃない仕組みを何か新しく考えてもいいのかなと思うわけです。なので、そういうことが議論できるように、ガイドヘルパーでそこを賄おうではなく、障がいの方をお連れする資格、スキルがある方じゃない方でも卓球台を組み立てられるというところであれば、そういう別の方法を考えてもいいのかな、ここで議論できるのかなと思いました。ありがとうございました。

＜盆子原会長＞ありがとうございます。

移動支援の体制づくりという意味においては、知的障がいにおいて佐藤委員からも前回お話をいただいたと思うのですけれども、一律16時間とかという話ですけれども、それはいかがでしょうか。増やそうとしても、毎回という話もありましたが。

＜佐藤委員＞増やそうとしても、毎回という話は個々に聞いています。ただ、重度寄りの方は行動援護も利用できたりするので、移動支援をやめて行動援護にしましたという人もいらっしゃいました。

サッカー教室さんのような送迎だけで移動支援を利用できたという方の場合、教室の時間中はヘルパーさんが必要ないぐらいの方の場合は、逆にヘルパーさんも送迎の時間しか仕事時間にならないので、より頼みづらいのはあるのかなと思います。運動をやっている時間中もヘルパーさんが必要なぐらい重度の人は、逆にがつり長時間見てもらったりするのですけれども。

移動支援をどこまで認められているのかというのは、逆に福祉部長にお伺いしたいですけれども。

＜千ヶ崎委員＞福祉部長の千ヶ崎です。

どこまでというのは、時間という意味ですか。内容の話ですか。

＜佐藤委員＞基本16時間で、それ以上もいろいろな形で認められている方はいらっしゃると思

うのですけれども、それが運動に参加するという目的を持って認められているのかとか、私のほうでは分からないのです。

＜千ヶ崎委員＞福祉部長の千ヶ崎です。

もう一回そこは確認しますが、私の知る限りでは、スポーツに行く際の移動支援も、移動支援には含まれている、内容としてはオーケーと伺っているのですけれども、そこはもう一回、後でちゃんと確認します。

＜佐藤委員＞そこで時間を増やしてくれるかどうかというところで。

＜千ヶ崎委員＞ちょっと確認します、そこは。すみません。

＜盆子原会長＞よろしく願いいたします。

そのほかございますでしょうか。

＜植松副会長＞聞こえない当事者として、ちょっと話はそれちゃうんですけれども、手話通訳が不足している話について確認したいなと思うのですけれども。

今年、デフリンピックのボランティア募集をして、抽せん結果が出たでしょう。申込みが1万8,900人ぐらい。もともと3,000人募集なのです。3,500人受け入れますと東京都のホームページに載っていました。

そのアンケートの中で、手話でコミュニケーション可能な人は、自己申告で1,600人いるんですって。結構多いじゃないかって。資格があるかないかというのは関係ないでしょう。自分の意思で手話のコミュニケーションができる人が1,600人。果たして足立区の中からボランティアはどれくらい申し込んでいるのかなと思ったのです。不足しているんじゃないかって、知らないだけかもしれない。足立区で手話ができる人は、もしかしたらいっぱいいるかもしれない。

情報の集め方で、私はお手伝いできますよと。デフリンピックのボランティアに申し込んだのに落ちちゃったんですよということをSNSに上げている人はいっぱいいるんですよ。でも合格した人は上げないのです。アピールしないのです。かわいそうだから。落ちちゃった人は、みんなアピールするのです。そういう人たちに案内してあげましょうと僕は言ったのです。住んでいる地区はみんなばらばらなので、たまたま足立区の人には分からないのですけれども、そういった集め方として、足立区のろう者協会のネットワークもありますから、どういうつなげ方が……。

あと、ちょっと分かっていないのですけれども、足立区の小学校、中学校とか、そういうところにも聞こえない指導者が訪問して、子どもたちに手話を教えるような体験はあったりするのかな。ちなみに自分の地元の品川区はあります。やっています。誰が派遣しているかという情報も入ってきます。そういうような仕組みはあったりするのです、

参考までにお願いします。

＜盆子原会長＞面白いですね。具体的といいますか、本当にシステムとしては、あっていいかなと思います。

＜加藤委員＞足立区ろう者協会の加藤です。

植松さんと同じ、私もボランティア募集に申込みをしました。結果、私は落選でした。足立区のろう協の役員で1人、聞こえる人はいないと聞いています。あと、小中学校関連では全くないですね、そういう依頼は。小中学校の教員については、当連盟の上部団体からは、情報が残念ながら、手話が分からない人がいっぱい入っていると。ボランティアといっても、看板を持って道案内をしたり、東京の職員もなかなか分かってくれなくて、世界からたくさんデフアスリートが集まってくる。11月15日に始まりますが、アメリカ人に手話で質問できない。何か聞かれたら何もできない。それはボランティアと言えるのだろうかということ、ちょっと心配。

そのほかに、東京武道館で空手、柔道を、11月17、18日でしたか、やります。まず柔道、その後空手の競技をやります。ボランティアはどうか。私からはどうかと聞いても、落ちちゃったのでできない。なかなか自主的にはできない。

入場券についても、後からホームページに出るということになっていますので、デフリンピックについては以上です。

＜盆子原会長＞ありがとうございます。

デフリンピックの機会をうまく、解決策が一步前進できるように何かできたならと思います。ありがとうございます。

そのほかございませんか。

4 アクションプランの「各事業詳細の新規事業」の設定

＜盆子原会長＞なければ、続いて次第4の「アクションプランの「各事業詳細の新規事業」の設定」について、事務局から説明をお願いいたします。＜村本スポーツ振興課長＞それでは、資料4の「アクションプラン（案）」の15ページをお開きください。

二重線の枠で囲んでいる箇所が新規事業の箇所となります。事業名の「各活動主体間の情報共有手段の構築と運用」についてですが、こちらは前回までの資料では「各主体別の情報連絡体制の構築」としておりましたが、皆様のご意見を頂きまして、各活動主体間の情報共有が足りていないということで、「各活動主体間の情報共有手段の構築と運用」と事業名を変更いたしました。

事業概要としましては、「地域のパラスポーツに関する情報を区のホームページに掲載する。掲載条件などを整備する」といたしました。

続きまして、17 ページをお開きください。

「既存施設へのユニバーサルデザイン導入」についてですが、前回の委員の皆様のご意見により、やはり当事者またはそのご家族に直接施設をご確認いただきまして、改善点をご指摘いただく必要があると感じました。頂いたご意見については、すぐに改善できるものばかりではございませんが、年に数回は現地確認していただく機会を設けたいと考えております。

続きまして、19 ページになります。

「障がい理解のあるサークル等の区ホームページでの紹介」についてです。

事業概要としては、「一覧の形式で区ホームページに掲載する。掲載する団体の条件などを整備、運用する」としました。

続いて、23 ページをお開きください。

「障がいのある方への移動サポート制度の検討」です。

前回の協議会でも委員の皆様からご意見を頂きましたが、引き続きの検討事項とさせていただきたいと考えております。

説明は以上になります。

<盆子原会長>ご説明ありがとうございます。

それでは、今の説明について、ご意見やご質問などがございませうでしょうか。挙手をお願いいたします。

いかがでしょうか。

なければ、学識委員の植松委員、いかがでしょうか。

<植松副会長>さっきのお話の繰り返しになっちゃうかもしれないのですが、手話通訳の講習会、硬い感じじゃなくて、難しいのですけれども、サークルって聞こえる人しか行かないんですよ。手話サークルって。聞こえない人は行かないんです。みんなしゃべっちゃうから。聞こえない人が面白くないと言っているんだって、手話サークル。講習会のほうは、しっかりやっているんだけれども、面白い話がないんだって。難しいよね。どっちがいいんだろうね。その間みたいなものが欲しい。僕みたいに、真面目にやるけれども、ちょっと楽しいこともしゃべるみたいな、そういうことを手話でやりたい。そういう講師は結構いると思うんですよ。僕は使わないでよ。分かっています？ 足立区ろう協会のほうに面白いろう者はいっぱいいますから。

あと、ろう者の俳優さんもいるんですよ。この間、品川区でちょっと面白いことをやったんですけど、手話狂言。手話狂言って日本手話を使うんですけど、デフリンピックを記念して国際手話を使った手話狂言をやった。見に行っただけですよ。面白かった。これは手話の勉強になる。そこで学びに行っ、またそこで楽しいような、パラスポーツミーティングじゃないけれども、そ

ういったミーティングみたいな会があるといいのかな。それを柱Ⅲかな、人材育成のところにも初級パラスポーツ指導員養成講習会みたいなものをちょっと別で、足立区独特の手話通訳要員を育てましようみたいな。例えば先ほど言っていたデフリンピックで足立区の武道館でやるのであれば、そこにちょっとカリキュラムを入れて見に行きましようとか、こういう場所でずっとやるんじゃないくて、いろいろなところへ行っ、手話を学びながらお互いに教え合。足立区のいいものはどんどん使っ、いきましようよと思います。僕は体験型講習会が一番楽しいと思っていますから。

以上です。

<盆子原会長>ありがとうございます。

いろいろなアイデアがありますね。品川のほうは非常に先導なさって、いろいろなさっているところで、足立区も先ほどの手話のいわゆる人材育成とともに、体験会のイベントといいますか、そういった企画があれば非常に盛り上がっ、いくんじゃないかなと思いますが、そういったところをこちらのほうで……。

<加藤委員>足立区ろう者協会の加藤です。

植松さんのおっしゃるとおり、手話を覚えるというのはなかなか難しいので、手話サークルと講習会は別ですね。最近趣味とか楽しみながらの勉強というので、手話をきちんと学ぶには講習会、目的が違います。手話通訳を目指す人、きちんとコミュニケーションを取れるということですね。

あと、こちらと相談して、デフリンピックのことも含めて、足立区の人たちみんながイベントをするときに、例えば今年9月に、イベントができたなら積極的に参加してくだ。デフリンピックを通じて手話を知っ、もらおうというような企画をしています。場所はまだ決まっ、いませんが、アトリウムになるか、庁舎ホールになるか、スポーツの担当のところと今話合中です。皆さん、そのときはよろしくお願いたします。

<盆子原会長>ありがとうございます。ご報告いただきまして。

<藤後副会長>藤後です。

これに関連しまし、何点かご意見をお伝えできたらと思うのですが、今、手話通訳のことが出ましたので、例えば29 ページの第3章の「施策展開」というところで、「学校訪問型パラスポーツ体験授業」にととも力を入れてくだしていると思うのです、足立区では。ヴェルディさんが担っ、くだしているのですけれども、例えばその授業の最初の導入のところ、少し手話を導入するということのも一つの方法かと思うのです。これは内容的にもすばらしい内容で、全校でやっ、くだしていますので、身体的な動きを伴いながら、かつそこに手話を入れていくということが機会としてできると、実現可能性が高いのではな

いかと思いました。それが1点目です。

2点目、今度は19ページのところですけども、「障がい理解のあるサークル等の区ホームページでの紹介」、これが新規事業として上がっております。

この内容自体は賛同するのですが、別件で区民評価に関わらせていただいている中で、区民評価というのは事業を検証していくのですが、多分この内容が上がってきた場合、よく指摘されることとしては、「じゃあ誰がホームページを見るんですか」ということを言われると思うのです。数としても、ホームページまでアクセスする人数というのは限られていると思います。

この指標の定義に関しまして「ホームページに掲載する団体数」になっていますので、きっとここで追求されることとしましては、「団体がいっぱいあったとしても、まず閲覧数を確認していないんですか」とか、「検索はどれくらいされているんですか、実際は」というところが、かなり指摘されると思いますので、もし間に合うのであれば、もう工夫するような内容があるのではないかと思いました。

最後に、23ページの先ほどから議論に上がっています「障がいのある方への移動サポート制度の検討」についてですけども、すみません、先ほど意見をお伝えできなかったのですが、1つの内容として大学生の活用ということが上がっていると思うのです。これも1つの案だと思っています。大学生だけではなく中高生も含めての学生たち、子どもたちをどういうふうにボランティアとして育成していくのか、育てていくのかというような視点があるとうれしく思います。「時間があるからボランティアしてくれるよね」というような感じだと、多分なかなか寄ってこないですけども、彼らを育てていくというか、彼らにとってのある意味楽しみというものは、いろいろな人との出会いであったり、自分たちのことに関心を持ってもらえるというのも前提として必要となってくると思うのです。ですので、学生ボランティアが障がいのある方に対して興味を持って一緒に活動していくという前に、地域の方々も学生や子どもたちに関心を持っていただく。そして自分たちが安心できる関係が築けた上で、多分ボランティアというのは継続できると思いますので、ボランティアを育てていくような視点を入れていただけたらうれしく思いました。

以上です。

<安岡副会長>様々なご意見が出ている中ですが、議論が、例えば聴覚障がいのある人であれば手話みたいな感じで固定されているような気がしたので、ちょっと発言させていただきます。

私どもの競技団体の中に、今回のデフリンピックに出場される競技団体の方たちがいらっしゃる

のですけれども、私たちが彼らに情報発信するときに「ああ、そうなんだ」と私は個人的に思ったのは、手話が理解できない聾の方がいらっしゃるということを初めて知ったのですよね。文字なら理解できるかという、文字もあまり得意じゃない方もいる。それが重複されている方もいる。だから、聾の方だから手話でコミュニケーションを取ればいいとかということではなくて、その人がどういう方で、どういうふうにコミュニケーションを取ればいいのか。それは別に聾の方だけじゃなくて、身体に障がいのある人たちも、視覚に障がいのある人たちも、それぞれの障がいは様々なので、そこに臨機応変に「じゃあ、こういうふうにやってみたら?」「じゃあ、こういうふうにやってみたら?」という引き出しの多い若い世代の人たちをつくっていくということが根底にあると良いなと感じました。

なので、さっきのサークルの話とかも大賛成なのですが、手話とか「何とか」って固定しないで、例えばこういう人たちがいるかもしれない。考え方としては、そのときに自分が使えるツールを使えばいいわけで、デフリンピックのときに国際手話が分からない人たちがいて、どうやってコミュニケーションを取るんだといえ、例えばGoogle翻訳を使って直接文字でやり取りするという方法もあるかもしれないし、そういうアイデアがたくさん出てくる人たちを育てていくという視点で活動していかれると、もっと広がるかなと思いました。

<盆子原会長>ありがとうございます。

非常に多くのご意見を頂きました。修正案を後日つくっていきたいと思っております。私にご一任いただきまして、事務局と調節させていただき、次回の協議会で皆様に再度お伝えしたいと思っております。

それでは、今回の協議で当初予定いたしましたアクションプランの協議事項は全て終了いたします。ですが、今まで部分的な協議でありましたが、全体を通して矛盾がないかというところ、また追加項目もございましたので、それらについて、もう一度必要な項目を入れて皆様に提示したいと思っております。

5 その他

<盆子原会長>続いて、次第5の「その他」の直近の開催予定のイベント紹介を事務局から説明いただきたいと思います。

<村本スポーツ振興課長>直近のお知らせはなってしまうのですけれども、イベント紹介をさせていただきますと思います。

まずは3月30日、今週の日曜日になりますけれども、第18回全国スペシャルトランポリン交

流大会が開催されます。こちらは知的障がい者と身体障がい者によるトランポリンの全国大会であります。午前 10 時から午後 4 時半まで総合スポーツセンターで開催いたします。公益財団法人日本体操協会と区が主催の事業となります。また、NPO 法人つばさの会のご協力で実施させていただきます。見学は自由となっておりますので、ぜひご来場いただければと思います。

つばさの会の齋藤委員、補足説明がありましたらお願いいたします。

<齋藤委員>つばさの会の齋藤です。

明日と明後日の 2 日間でトランポリンの全国大会をやります。これからのパラスポーツのことを考えていくと、ちょっと参考になるかなと思うので、ちょっと内容を説明させていただきます。

トランポリンは 10 種目を演技と難しい技で競うのですが、障がい者の場合は、10 種目を自分で覚えてできる方たちを A クラス、ちょっと難しいかなと思う人たちを B クラス、声をかけたり、模倣したりしていいということをつくっています。声をかけても何をしてもしない人たちの場合は 5 種目、そういう設定をしています。5 種目ができない人の場合は演技発表。例えば脳性麻痺の子たちは、ボールを使って、こういうふだんの練習をしていますよということを演技発表してもらったりしています。A クラス以上の場合、例えば知的障がいの軽度の子たちは、長くやっていると結構回転までできるのですね。その人たちは S クラス。それからイギリスにスペシャルのトランポリンの大会があるので、その大会を目指して SS クラスというのをつくっています。イギリスのスペシャルの規定があります。その規定ができないとちょっと難しいので、なかなかレベルは高いのですが、全国スペシャル自体は誰もが参加できるように内容を検討してやっていることが事実です。以上です。

よろしかったら、ぜひ見に来てください。

<村本スポーツ振興課長>ありがとうございます。

続きまして、スペシャルクライフコートフェスティバルについてです。

4 月 29 日、祝日に総合スポーツセンターで開催いたします。チラシはまだできておりませんが、多くのパラアスリートをお招きしまして、体験会ですとかステージでのトークショー、そういったものを開催いたします。なお、本日、ホームページに情報をアップいたしましたので、ぜひご覧いただければと思います。

また、チラシが完成しましたら皆様にお配りさせていただきますので、ぜひイベント参加の呼びかけにご協力をいただければと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

以上でございます。

<盆子原会長>ご説明いただきましてありがとうございました。

本日の協議事項は以上となります。事務局に司会を戻します。

6 次回日程について

<村本スポーツ振興課長>長時間のご審議ありがとうございました。

次回の日程についてですが、まだ決まっておりません。決まり次第ご連絡をさせていただきます。

また、1 か月前には開催の通知と、2 週間前には会議資料を送付させていただきます。お忙しいところ恐縮ではございますが、次回のご出席もよろしくお願いいたします。

最後に事務連絡を 2 点させていただきます。

1 点目ですけれども、会議の冒頭でご説明いたしました、事前に第 4 回の議事録をお送りさせていただいております。ご自身の発言をいま一度お読みいただきまして、内容について修正の必要がある場合などがございましたら事務局までお申し出をいただければと思います。

2 点目でございます。お車でお越しの方につきましては無料の駐車券をお渡しいたしますので、出口の係員までお声がけをよろしくお願いいたします。

それでは、以上もちまして本日の推進協議会は終了いたします。誠にありがとうございました。

お忘れ物をなさいませんよう、お気をつけてお帰りいただければと思います。長時間ありがとうございました。